

自分の考えをもち表現することができる子の育成

～ 第2学年 国語「お手紙」の実践を通して ～

胎内市立黒川小学校 教諭 樋木ちな美

1 はじめに

学習指導改善調査の分析により、学校全体で、自分の考えをもってしっかり表現する力を高めることが大きな課題であることを再確認した。

授業では、次のように指導改善をし、落ち込んでいるところを高めていくことにした。

児童の実態		指導の改善で付けたい力
・「根拠を生かして記述する力」が弱い	→	・「～だから～だ」と根拠を述べて書いたり考えたりする
・引用するだけの解答が目立つ→	→	・解釈までする ・自分の体験や知識を盛り込む

2 授業の実際

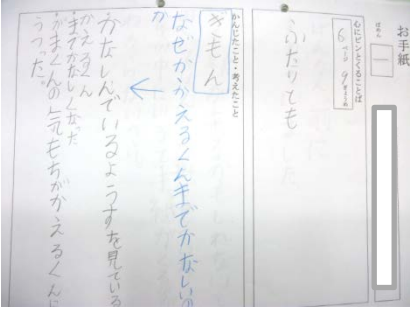
(1) めざす子ども像

一つ一つの言葉を大切にしながら文章と自分の思いや経験をつなぐとともに、友だちの感じ方に共感しながらより深く作品を味わうことができる子ども

(2) 方策及び成果と課題等

方策① 3つの対話を意図的に仕組む	成果と課題等
<p>●「教材との対話」</p> <p>「なぜそう思うの？」と尋ねるのではなく、「どこから、そう思うの？」と問いかけることで、教材とのつながりを生むようにする。</p> <p>●「自分自身との対話」</p> <p>導入のとき、教材文の内容に関するこれまでの経験や知識について交流することで、教材文と自分自身の経験を照らし合わせながら読み描くことができるようにする。</p> <p>●「友だちとの対話」</p> <p>意見交流を通してそれぞれの子どもがもつ多彩なイメージを交流し、読みを深める。このとき、文章の言葉に即して意見を述べさせることで、文章からかけ離れないようにする。</p>	<p>3つの対話を通して児童は、文章のどこにどんな言葉があるから自分はどう思うかなど、文章から見つけた言葉をもとに根拠を述べて意見交流することができるようになった。</p> <p>読解をし、解釈していく過程を通して文章中の言葉を引用するだけの意見交流ではなく、体験や知識を盛り込んだ意見交流をすることができるようになってきた。</p> <p>今後もこの3つの対話を意図的に仕組み、読みを深めさせていきたい。</p>



<p>方策② 言葉のツールボックスを提示する</p>	<p>成果と課題等</p>
<p>言葉を思考の道具として捉える事ができるように、意見交流を行わせるための言語材料、単元の主題に関わること、読解や解釈に関わることに触れて話すときに必要になってくるだろうと思われる言葉を「ことばのツールボックス」として提示し、いつでも見ることができるように掲示する。使いこなせる言葉の範囲を広げたり、言葉の使い方を鍛えたりすることによっていろいろな言葉を使って表現させ、思考力を高める。</p>	<p>言葉のツールボックスを頼りに意見交流をすることより、今まで語彙力が少ないために考える力が弱く、発言できなかった子も、自分の考えを表現するのに当てはまる言葉を見つけて発言できるようになった。</p> <p>意見交流をする手順として、本単元では読解をしてから解釈をするようにしていたが、場合によっては解釈をする学習活動の際も、読解したことをもう一度振り返らせるとよかった。</p>
<p>方策③ 児童全員に考えをもたせる</p>	<p>成果と課題等</p>
<p>意見交流する前に、教材文を読んで思ったこと、考えたことや疑問など、自分の考えを整理してワークシートに書かせる。ワークシートには、解釈の根拠となる具体的な言葉も書かせ、それをもとに、意見交流する。</p> 	<p>本単元では、ワークシートにメモしたことを基にすることによって自分の考えを表現し、話し合うことができた。しかしこのような書き言葉をあらかじめ準備しなくても本文を読みながら自由に感じたことなどを話し合っていけるようにしていきたい。そのためには、このような活動をたくさんさせながら少しずつメモする言葉を減らし、感じたことを直接話すことで表現できるようにしていきたい。また、交流のあり方として、一つの意見につながる次の意見が出され、だんだん一つの意見が深まっていくという意見交流をめざしたい。</p>
<p>方策④ 意見交流をコーディネートする</p>	<p>成果と課題等</p>
<p>次のような児童の姿をめざし、意見交流をコーディネートする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分が感じたことを話すことで、自分の考えをより確かなものとする。 ●友だちの話を聞くことで新たなことに気付く。 ●どこが自分の考えと違っていたか考えたり、友だちの考えの面白さを見つけたりする。 ●話し合いを通してさらに読みを深めていく。 	<p>心にとどまる言葉についてメモしたことを基にグループや、クラス全体で意見交流させ、読みを深めることができるようにした。文章と自分の思いや経験をつなぐ時、文章中にある言葉がどのような意味をもっているのか言葉に表すことができなかつた子も、友だちが言葉で表現したものを聞いて、自分の考えとしてより確かなものとしていくことができた。また、自分が気にも留めなかつた言葉が、意見交流を通して文章の中で何らかの意味をもっていることに気づく児童もいた。</p> <p>友だちの感じ方を受けとめながら読み描き、読みを深めさせることができるような意見交流をめざしたい。</p>

